学校だより

唐津市立加唐小中学校
第１６号
令和２年 11 月 20 日発行
文責　校長　宮地　浩幸

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

ライバルは昨日の自分

本校体育館には，バドミントン部の横断幕が掲示してあり，そこに「ライバルは昨日の自分」と書いてあります。この言葉，かなり奥が深いと感心しました。スポーツは基本相手と競技することが多いのですが，当然やるからには選手は勝ちにいきます。勝つことはその目的ではありませんが，それを目標にすることで厳しい練習にも耐えることができます。試合結果は，毎日の努力の積み重ねの反映であるために，それを十分に発揮できれば悔いはありません。例えば，目標を「県大会優勝」や「全国大会出場」とし，どのくらい達成できたか，自己の評価規準に使います。しかし，往々にして極度の緊張感や油断が原因で実力を発揮できずに終わることがあります。そんなことを戒めるために「平常心」や「克己心」という言葉を心に刻むことがあります。簡単に言えば，自分とどう立ち向かうかによって実力が発揮できないことを克服しようとします。もちろんこのようなことは，スポーツに限らず勉強にも通じることだと思います。

自分を知り，どのように日々向上していくか究極の課題です。「ライバルは昨日の自分」にはこのことが良く反映されています。「平常心」や「克己心」は現在の自分が対象であり，現状をどのように維持していくかを考えるものだと思いますが，横断幕の言葉は，ライバル（乗り越えたい相手）は昨日（過去）の自分なのです。つまり，本校の子ども達は，今日の自分は昨日の自分を超えることを目標にしています。常に向上することを念頭に置いているのです。

開かれた教育課程

学校は誰のために存在するのか？いろいろ考えられると思いますが「子どもファースト」これが本年度，校長として赴任して先生方にお願いした内容です。本年度も半分が過ぎ，そろそろ，学校教育の結果を求めて，加唐小中学校の児童生徒たちにどのような力をつけなければならないか仕上げに入る時期になってきたと思います。日々子ども達は授業や行事を実施する中で心身共に変化をしていると思います。日々の変化は，非常に小さくわかりづらいものですが，本年度も半年ほど過ぎた今，年度当初（４月ごろ）と比べてどうでしょう。確実に身体的な変化はあります。精神的な成長，学力向上について，保護者の皆さんはどうとらえられますか？

学校として，望ましい子ども像に対して，「おおむね達成できている」というのが，ここまでの自己評価です。それでも何か物足りない感じがします。足りない理由は何か？それは，確かな学力，豊かな心，健やかな体を客観的に示すことができる指標が見えていないからかもしれません。例えば相対的な学力の指標として，学習状況調査や実力テストがあります。これまでの勉強の頑張りは，12 月に実施される

学習状況調査に反映されると考えます。また，心の育成に関しては，小規模校であるがゆえに，互いを思いやり優しい気持ちが育つ環境にあり，もともとそのような素養を子ども達は持っていたのかもしれないと思えば学校教育がどれだけ子ども達の心の育成に寄与したかわからない部分があります。さらに，体力の向上においては部活動への小学生の参加や，週に一度子どもと職員が昼休み遊んでいるような状況もあります。ただ，それを反映するようなスポーツ関係の実績も残していきたいと考えます。

小規模校ゆえに学習，スポーツ面で子ども一人ひとりのニーズに合わせた教育を施すことを念頭に置き，教育活動を行っていますが対外的にも納得のいく成績を各方面で実績として示したいと思います。加唐のバドミントンが県下にその名を知らしめたように，文武両道，何でも一生懸命頑張る加唐小中学校でありたいと考えます。これは学校だけで成し遂げられるものではありません。この方針のもと学校，保護者，地域，外部機関などの関係を深め子ども達のために協力できるチーム加唐の確立を目指したいと思います。これからもご協力をお願いします。

マラソン大会

11 月 6 日（金）の 3 校時にマラソン大会を行いました。当初 11 月 2 日（月）に予定していましたが，その日はあいにくの雨でした。今回は，少し雲は多かったようですが，天気には恵まれました。小学校低学年は 1000m，小学 4 年生以上は 2000m走りました。保育所の年長園児も飛び入りで参加してくれました。多くの方々が応援に集まっていただき，子ども達も緊張が増したり，意欲が高まったりして良かったと思います。ありがとうございました。

これまで，伝統的にマラソン大会は行われてきましたので，子ども達は先輩方の偉大な記録を追い越すことを目標に，日々の練習に励んできたようです。また，多くのギャラリーの中で競技することを楽しみにしていた様子が窺え，島全体としても楽しみにされている学校の恒例行事であると認識し，今後も引き継いでいく意味を持つ行事だと確信したところです。というのも，最も新しい学習指導要領では，小学校の体育の授業で，長距離走は扱わなくなりました。昔と比べて，子ども達の体力が落ちてきていることもその原因かもしれません。しかし，本校の子ども達は元気いっぱいに，一人も脱落するものもなく完走できました。また，マラソンは進路実現によくたとえられることがあります。自己を調整しどのようにしてベストを尽くすかということです。ペース配分を考え，辛抱するところとスパートとするところのメリハリを自己の特性にあったように配分しなければなりません。周りの人たちのペースに合わせてやろうとすれば，すぐにばてて，完走すらままならないこともあります。マラソンのペース配分は，まさに，高校受験までの計画に似ているのです。今回子ども達は，計画通りの走りができたのではないでしょうか。

温故知新

学習指導要領では，小学校での体育の授業では，長距離走の指導が無くなりました。その中でマラソン大会を実施することに少し不安はありましたが，多くの方に見に来ていただき，これまでの加唐小中学校でのマラソン大会の位置づけが見えてきた気がします。また，保育所の年長さんにも参加してもらい，子ども達の自然豊かな環境での体力が十分に育まれていることに安心感も覚えました。

これまで，伝統的に行われてきた行事への思いを感じつつ，これから，新しい加唐小中学校の児童生徒や保護者，地域の方々のニーズにこたえることができる学校づくりを考えていかなければなりません。　マラソン大会の実施はそのような意味でも有意義だったと思います。